



相ノ木っ子だより

令和元年度
学校だより
3月号
上市町立相ノ木小学校

道ばたにある宝物

今月に入り、新型コロナウイルス感染防止のため、春休みまで学校を臨時休業にしました。年度末の大事な時期であり、卒業を祝う集会や卒業式といった大きな区切り、別れを惜しむ式を全校で行えないこと、子供たちに1か月に渡って寂しい思いをさせてしまうことは、とても残念で、申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、子供たち、わたしたちの健康を守ることが最優先です。保護者の皆さんには、その点をご理解いただき、お子さんと過ごし方を相談するなど、ご協力をよろしくお願いします。

さて、時の経つのは本当に早いもので、「相ノ木っ子だより」にお付き合いいただいて2年間になります。その間、子供たち、本校教育への支援を含め、いろいろとありがとうございました。今年度最終号に私的なことを書くのはやや気が引けるのですが、わたしの休日の過ごし方についてお話します。十数年前に健康保持（体重増防止？）のためにウォーキングを始め、ずっと続けています。雨や雪が降っていなければ、音楽を聴きながら1時間半程度歩いています。ちょっと速足ぐらいで、ランニングやジョギングよりもあまり負担にならないため、持久走嫌いのわたしにとって具合がよいみたいです。また、相ノ木っ子だよりや挨拶の原稿を考えるのにもちょうどよいのです。遠くの立山連峰や周囲の風景を眺めながら頭の中で言葉を紡いでいると、意外と文章として形づくられてきます。

普段は家の近所を回るのがですが、時々外出先の周辺を歩くことがあります。もっと言えば、ウォーキングをするためにわざわざ場所を探して車で出かけています。毎週末近所だと飽きるからというのもありますが、歩いたことのない所を新たに開発したいというのが大きな理由です。他の市町村には、歩いたことのない道、初めて見聞きする場所がたくさんあります。たかが富山県内なのですが、自動車ではあまり行かないような道をウォーキングすると、今まで知らなかったことが結構あることに驚きますし、たくさんの発見をします。「〇〇さんって、変わった苗字だな」「こんな所に〇〇という会社があったんだ」読み方も分からない苗字が書かれた表札や聞いたことのある会社の所在地を知って喜んだり、各家の佇まいや庭のきれいさ、その地域ならではの特色を感じたりすることができます。これまで、まあいろんな所へ行きました。

それから、ウォーキングと通じる趣味、好きなことがあります。それは、車で国内旅行です。長期の休業中には、美味しいもの、温泉、観光名所等を求めて出かけています。早く新型コロナウイルス感染が収まってくるとよいのですが…。飛行機嫌いですし、電車だと旅行先での細かな動きが取りにくいので、やはり自分の車で旅するのが好きです。これまで沖縄県を除く46都道府県に行きましたが、飛行機や電車では味わえないものになっています。家々の屋根の形や色だったり、寄ったスーパーの食材だったり、ほんの些細なことに発見があり、わたしたちとは違った地元の人々の生活が見えてくる気がします。

もちろんたくさんの観光名所での見聞や感動は格別のものがあります。ただ不思議なことに、中学校の修学旅行地に再び訪れたのですが、その頃の記憶が全然ないことに気がきました。来たはずなのですが、初めて訪れたかのような印象です。いかに中学生の頃は、ただ連れてこられただけの旅だったかが分かります。今のわたしには、その場所で何かを吸収したい、知識を得たいといったものが存在するのでしょうか。そんな知的好奇心が今あるからこそ、いろいろな発見や知識として取り込むことができるのです。そして、自分で見よう、知ろう、感じようという意識をもって、じっくりとのんびりと眺める旅でなければ、いろいろなものはただ素通りするだけです。

科学者であり、随筆家でもあった寺田寅彦氏は、「科学者とあたま」で次のように言っています。

**頭のいい人は、いわば足の速い旅人のようなもので、
人より早く行き着くことができるが、
途中の道ばたにある肝心の宝物を見落とす恐れがある。**

人生においても同様のことが言えるのではないのでしょうか。効率のよい、さっと答えを出せる賢い方法ばかりがよいとは限りません。少々よろまで、無駄の多い方法の方が、しっかり身に付く、感動の多い宝物を抱くことができるかもしれません。頭のいい人の旅であれ、そうでない人の旅であれ、知的好奇心をしっかりとって進みたいものです。



相ノ木っ子の集中力はすごい！



毎年恒例のけん玉大会。「相ノ木小と言ったら、けん玉大会」と、子供たちは自負し、外部の方もおっしゃるぐらいの伝統行事です。「もしかめ」の部は、子供たちのテンポの速さと確実性にびっくりします。まるで玉が止まっているかのような膝の使い方で、レベルの高い持久戦が見られます。また、「技」の部は、ステージ上で、体育館内全ての人を巻き込んだ、とても熱い対決が繰り広げられます。いとも簡単に1回目で難しい技をクリアする子、挑戦回数ぎりぎり成功させて粘りをみせる子等、それぞれの成功の瞬間、競技者は会心のガッツポーズを決めるとともに、「すご〜い」「やったー」と見ている者も思わず声を上げてしまいます。

第34回を迎えた今年の大会は、これまで以上の盛り上がりを見せてくれました。まず、低学年の健闘が光っていました。初めて大会に参加した1年生は、「もしかめ」もまずまず、「技」の始めの方は1発でできた子が多かったです。なかなかの筋のよさに今後がとても楽しみにになりました。また、2年生の女の子は、上級生の強者たちと一緒にステージに上がり、同級生からの大きな声援を受けながら技を成功させていました。けん玉との出会いからそんなに日の経っていない低学年が成果を出せたのは、集中した練習を続けてきたおかげだと思えます。今後も練習を続け、さらに高みを目指して励んでほしいです。

また、前年度チャンピオンたちの意地とプライドを存分に見せてもらいました。「もしかめ」の6年女子は、昨年度全校1位にはなったのですが、10分間続けられずに少し悔しい思いをしました。今年は、10分間やり続けて自己新記録を達成しての堂々の1位でした。「技」の5年女子は、昨年度「超人」での全校1位でしたが、今年は常に安定した技の成功を重ね、最高位の「けん王」に見事到達しました。二人のチャンピオンの挑戦する姿を見ていて、これまでの実績や練習に伴う確かな自信とともに集中力がかなり重要な要素だと感じました。

けん玉大会において、低学年やチャンピオンたちだけでなく、どの子も皆、技能面はもちろん、集中力が高いのは明らかです。でも、どうして相ノ木っ子は、これだけ集中力を高められたのでしょうか。おそらくそれは、努力、根気強さといったものが大事になってくると思います。練習しているとうまくいかない日もありますし、どうしてもできない技に何日も何日も挑戦することもあるでしょう。でも、そこであきらめてしまったら、おそらく挑戦する集中力を養うことはできません。日々のけん玉練習を通して、相ノ木っ子たちは、失敗してもくじけない強さ、集中し続ける強さ、努力を積み重ねる強さといった、心身両面の強さを身に付けたのでしょうか。

ジャーナリストの轡田隆史氏は著書「考える力をつける本」で次のように言っています。

力の差とは、

力そのものの差であるよりは、

自分自身でもっている力の引き出し方の差なのである。

轡田氏の言っている「力」は、学力や知力、体力ではなく、能力のことでしょう。能力にはもちろん個人差があるでしょうが、それを自分自身で引き出さない限り、能力を発揮することはできません。自分も持っているかもしれない能力を引き出そうとする努力をいかに続けるか、自分を高めようとする意識をどれだけもてるか、そういった差が、力の差となって表れてくるのですね。

けん玉練習、けん玉大会という努力できる大きな場があるのですから、相ノ木っ子のみんなには、どんどん自分を高めていくよう挑戦してもらいたいです。また、けん玉で培った根気強さや集中力といったものを、他の面でも新たな自分の能力開花に活かしてほしいです。

行事予定(3月申旬～4月申旬)

3月17日(火) 卒業証書授与式

20日(金) 春分の日

25日(水) 学年末休業(～4/3)

4月6日(月) 第1学期始業式

7日(火) 入学式

8日(水) 1年交通安全教室

9日(木) 学力調査(国語・理科)

10日(金) 学力調査(算数・社会)

登校班結団式

交通安全パトロール隊対面式

